

## 初級編・中級編との違い

カリキュラムコーディネーター養成講座<評価編>は、これまでの研修会参加者から、実際の改善に繋げるための具体的な手法をもっと学びたいという声を受け、開催することといたしました。

評価編では、初級編で学んだ理論に加え、実際に改善に繋げるための実践手法を学んでいただくことを目指します。

初級編、中級編を未受講の方も是非ご参加ください。

## 事前課題

本研修会は、事前課題①と事前課題②があります。まず、事前課題①の動画を視聴したうえで、事前課題②のワークシートへの記入を行ってください。事前課題①については、12月4日月曜日を日曜日にご案内します。事前課題②につきましては、研修会当日までに行っておくよう、お願いいたします。

### 事前課題①

#### ディプロマ・ポリシー・ルーブリックを作成する

竹中喜一

本動画では、ディプロマ・ポリシーに定めた能力を評価するためのルーブリックの作成方法について解説します。また、その前提としてルーブリックとは何か、そして、ディプロマ・ポリシーをどのように定めるべきかについても説明します。

#### 成績に関するデータを活用する

竹中喜一

本動画では、どの大学でも蓄積されている成績に関するデータをカリキュラムを通じた学習成果の評価に活用するにあたり、どのような分析の切り口や方法があるかについて、いくつかの例を示しながら説明します。

### 事前課題②

#### ワークシートへの記入

ワークシート「所属大学のカリキュラム評価の特徴と課題」に記入を行ってください。記入内容について、当日に割り当てられたグループのメンバーに5分程度で報告できるように準備をお願いします。

尚、ワークシートの記入にあたっては、テキスト『カリキュラムの編成』の2章、3章、4章ならびに『学習成果の評価』の3章、4章、11章、12章を参照してください。

## 参加申し込み

次のURLよりお申し込みください。

お申込み

<https://www.jaedweb.org/cc1>

問合せ  
メールアドレス

[info@jaedweb.org](mailto:info@jaedweb.org)

参加費

1人 20,000円

振込先

三井住友銀行 兵庫支店 普通 7758395 カマヒトイヨウカミテザイケンキョウ

<含まれるもの> 中井俊樹 編著『カリキュラムの編成』・竹中喜一 編著『学習成果の評価』（玉川大学出版部）/ オリジナルテキスト / 事前研修費用 / 12月23日24日の研修費用

## 日本高等教育開発協会（JAED）

Web: <https://www.jaedweb.org> お問い合わせ先: [info@jaedweb.org](mailto:info@jaedweb.org)

- 学習成果の評価から教育力向上に向けて動き出す -

# カリキュラムコーディネーター 養成研修会<評価編>

受講証  
発行

～ 組織がチームとして教育に取り組むための仕組み作り ～

組織がチームとして学生をどう育てるか議論し、その成果を評価し、教育改善に取り組む。本研修会は、貴校において持続的な教育改善の仕組みを確立していく人材養成を目指します。

- 方法 ハイブリッド方式（オンデマンド研修＋対面研修）
- 開催日程 2023年12月23日土曜日10:00から24日日曜日16:30まで
- 対象者 カリキュラムまたは学習成果の評価・改善にかかわる教職員
- 場所 近畿大学東大阪キャンパス3号館4階401教室

- 主催 日本高等教育開発協会
- 共催 教職員能力開発拠点（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室）  
理工学教育共同利用拠点（芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター）  
学びと成長しくみデザイン研究所

定員 30名  
(最低10名)

【事前課題があります。詳しくは最終ページをご参照下さい。】

ここ数年で、カリキュラムの評価・改善や、学習成果の可視化というキーワードに対する認知度が高まってきました。

一方で、カリキュラムの評価・改善や、学習成果の可視化のためにデータを集め始めたものの、そのデータをどう活用すればカリキュラムの改善に繋がるのかよく分からず、実質的な改善議論にはまだ繋がっていないというお話を伺うことも増えてきました。

カリキュラムのアセスメント方策は、一定の答えがあるものではありません。所属組織の状況に応じて、事務組織の負担とのバランスを考えながら組み立てる必要があります。

本研修会では、カリキュラムの評価・改善に関する取り組みを機能させ、実質的に効果のあるものとするための実践手法を、理論と事例の両面からお伝えします。

認証評価に向け準備の必要な高等教育機関の方はもちろん、受審を終えた高等教育機関の方も、カリキュラムの評価・改善活動の実質化を図り、所属組織の教育力を継続的に高めたいと願う皆様は、是非ご参加ください。

### このような方が対象です

- カリキュラムまたは学習成果の評価・改善に関わることになったが、まだ何から手を付けていくと良いか分からない方。
- どのようなデータを、どのように集めておくと、運用の手間を抑えつつ、適切な評価・改善に繋がるのか、収集すべきデータの選択肢を広げたい方。
- 所属組織の教育力を継続的に高めるため、評価・改善の取り組みを学内に定着させたいと願っているが、どのような可能性があるか、他大学の事例を知りたい方。

### 参加により期待される変化

- カリキュラムを通じた学習成果の評価方法についてさまざまな方法を知り、所属組織に合った選択肢を増やすことができます。
- カリキュラム評価に至るまでの過程や、評価した後の教育改善など、評価しっぱなしにならないための方法論を学ぶことができます。
- 講師や他の参加者と議論していくことにより、所属組織のカリキュラム評価の現状と課題を整理し、解決策のイメージを具体化することができます。

## 到達目標

1. 学生の学習成果にもとづいてカリキュラムを評価する意義を説明することができる。
2. 学生の学習成果の評価の計画、実施、分析、改善の具体的な方法と課題を身につけることができる。
3. 所属組織における学生の学習成果の評価に関する課題解決の方法を提案することができる。
4. 学生の学習成果の評価に関する多様な考え方や実践事例を尊重し、参加者と共に学び合う文化づくりに貢献できる。

所属組織におけるカリキュラム評価の課題を特定し、解決するための方策を考え、アクションプランとして取りまとめる作業を行います。

## 講師



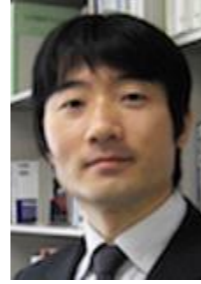
**竹中喜一**  
日本高等教育  
開発協会 正会員  
近畿大学 准教授



**中井俊樹**  
日本高等教育  
開発協会 会長  
愛媛大学 教授



**榊原暢久**  
日本高等教育  
開発協会 正会員  
芝浦工業大学  
教授



**中島英博**  
日本高等教育  
開発協会 正会員  
立命館大学 教授



**上月翔太**  
日本高等教育  
開発協会 正会員  
愛媛大学 講師



**桑木康宏**  
日本高等教育  
開発協会 正会員  
学びと成長しくみ  
デザイン研究所 代表



**西野毅朗**  
日本高等教育  
開発協会 副会長  
京都橘大学  
准教授

## プログラム

### 研修1日目 ◆ 12月23日土曜日

開場 9:50

#### オリエンテーション <10:00 - 10:20>

10:20 - 11:10

#### カリキュラム評価の意義と方法を理解する

中井俊樹

大学におけるカリキュラム評価とはどのようなものなのか、そしてなぜカリキュラム評価が求められるのかを明確にしたうえで、カリキュラム評価を進める際の主な論点と課題を理解します。

11:20 - 12:00

#### 所属大学のカリキュラム評価の特徴と課題を考える

竹中喜一

カリキュラムの評価とそれに基づく改善を行うための現状を振り返ることを通して、所属組織における評価の特徴と課題について考え、他の参加者と共有します。

#### ランチタイム <12:00 - 13:00>

13:15 - 14:05

#### アセスメントプランを明確にし実効性を高める

桑木康宏

アセスメントプランは作るよりも、機能させることが難しいようです。複数大学で実績のある評価の指針の参照モデルと、これを機能させるための実践から出てきた工夫をご紹介します。

14:20 - 15:20

#### 重要な授業科目や卒業論文で評価する

中島英博

量的評価に偏りがちなカリキュラムの評価ですが、質的で直接的な学習評価を活用しながらカリキュラムレベルの評価に取り組むための方法を紹介합니다。

15:30 - 16:20

#### 学生調査を用いて評価する

竹中喜一

カリキュラムを通じた学習成果を評価するための代表的な方法の一つに、学生調査があります。どのような調査項目を設定し、収集したデータをどのように分析すればよいかを理解します。

16:20 - 16:50

#### ポートフォリオに基づき評価する

榊原暢久

学生個々の学習ポートフォリオの情報に基づき、カリキュラムの効果を可視化し、点検することができます。ここでは、その実践事例をご紹介します。

#### 1日目の内容に対する質疑応答 <16:50 - 17:00>

### 研修2日目 ◆ 12月24日日曜日

開場 9:50

10:00 - 10:50

#### 評価結果を学生にフィードバックする

上月翔太

カリキュラム評価を学生の学習に結びつけるためには、フィードバックを工夫することが大切です。効果的なフィードバックを行うためのポイントや事例をご紹介します。

11:00 - 12:00

#### 評価を教育改善につなげる

中井俊樹

評価は教育改善に活用することができます。教育改善につながる評価結果とはどのようなものか、そしてどのようにしてその評価結果を提示したらよいかを理解します。

13:00 - 16:20

#### カリキュラム評価の課題解決案の作成と共有

竹中喜一

作成した課題解決案を他の参加者や講師と共有しフィードバックを得たり、質疑応答を行ったりすることで、課題解決の実現可能性を高めていくことを目指します。

#### 振り返り・アンケート記入 <16:20 - 16:30>